

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2024年2月NO.55

# SMILES

<https://www.childfund.or.jp>



特集

社会を変える!私を変える! /

## 子ども・ユースと取り組む アドボカシー活動



**ChildFund**  
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

社会を変える！私が変わる！

# 子ども・ユースと取り組む アドボカシー活動

チャイルド・ファンド・ジャパンの活動の柱の一つであるアドボカシー（政策提言）。子どもたちをオンラインのリスクから守る活動など、現在、様々な形でアドボカシー活動に取り組んでいます。今回の特集では、チャイルド・ファンド・アライアンスの取り組みや他団体と連携した取り組みを含めて、アドボカシー活動について詳しくお伝えします。



## アドボカシーとは？

アドボカシー (advocacy) は、「擁護」「支持」という意味を持つ言葉で、「政策提言」と翻訳されることが多い言葉です。貧困や差別などによって権利が守られていない人々、子ども、障がいをもつ人など、弱い立場にある人たちの権利を守るために、市民団体や個人が声をあげ、議員や行政に働きかけ、法律や制度をより良いものへ変えていこうとする取り組みを指します。SNSなどのメディアを使って社会課題について広く一般市民へ訴えたり、政府へ署名や要望書を提出したりすることなどは、代表的なアドボカシー活動と言えます。

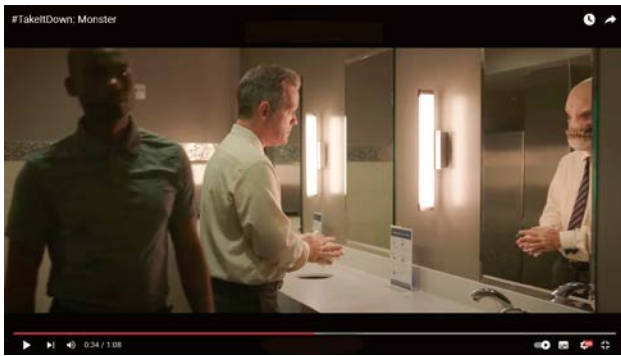
チャイルド・ファンド・ジャパンでは、スポンサーシップ・プログラムを通じた教育、保健、栄養などの支援事業を活動の中心としていますが、アドボカシー活動も大切な活動として位置づけています。スポンサーシップ・プログラムなどを通じた支援が、子どもたちや家族、地域を草の根的に支援していくのに対し、アドボカシー活動は、法律や制度を変えることで、より広く、世代を超えた持続的な解決を目指します。両者は、子どもを守るための「活動の両輪」と言えるのです。



## アライアンスで取り組む「WEB Safe&Wise」キャンペーン

このアドボカシー活動として、現在、チャイルド・ファンドがアライアンス全体で取り組んでいるのが「WEB Safe&Wise」キャンペーンです。

世界中でインターネット、スマートフォンが普及する中、子どもたちはオンライン、デジタルにおける様々な新しいリスクにさらされています。例えば、アメリカの全米行方不明・被搾取児童センター (NCMEC) は、2022年に約3,200万件の子どもの性的虐待・搾取素材 (CSAM/CSEM※) 等の通報を受けたとしており、近年この数は急増しています。WEB Safe&Wiseキャンペーンでは、子どもたちがこうしたリスクから守られ (Safe)、同時にテクノロジーをうまく活用できるようにする (Wise) ことを目指し、政策提言などを行っています。 ※CSAM =Child Sexual Abuse Material, CSEM =Child Sexual Exploitation Material



<https://youtu.be/eScIz6bphZw>

左の画像は、アメリカのチャイルド・ファンド (チャイルド・ファンド・インターナショナル) が、WEB Safe&Wiseの一環として行っている「#TakeItDown」キャンペーンの動画です。鏡に写る男性の顔は、異形なモンスター。テクノロジーによって犯罪者が簡単にその正体を隠すことができるようになったことを暗示しています。動画の最後は、「Technology created this monster, only technology can take it down. (モンスターを生み出したのは、テクノロジーだ。モンスターを倒すことができるのも、テクノロジーだ。)」というメッセージで締めくくられます。

キャンペーンでは、こうした動画を通じて保護者などに対してCSAM/CSEMの問題を広く伝えると同時に、政府に対しては、テクノロジー関連企業がCSAM/CSEMを自主的に検出して削除することを義務付ける法律を制定することなどを求めています。そして、国民一人ひとりに向けて、自分の住む地域の議員へSNSなどでメッセージを送り、法整備を訴えるように呼びかけています。

## チャイルド・ファンド・ジャパンのOSECをなくす取り組み

チャイルド・ファンド・ジャパンがここ数年取り組んでいる、OSEC (子どもへのオンライン性搾取)※をなくすための取り組みも、このWEB Safe&Wiseの取り組みの一環として位置づけています。2022年から2023年にかけて、下の表のように、様々な取り組みを行ってきました。

※Online Sexual Exploitation of Children



海外の専門家を招いての実務者懇談会の様子 (2022年)

2022年

2月 OSECに関するオンラインセミナー開催

OSECをなくすためのオンライン署名実施

7月 署名、要望書を野田聖子内閣府特命担当大臣 (肩書は当時) に提出

9月 シンポジウム「OSECから子どもを守る!」開催  
実務者懇談会開催

2023年

2月 G7広島サミットに向けた要望書を提出 (他4団体と連名)

10月 グルーミング啓発動画づくりプロジェクトをスタート  
インターネット・ガバナンス・フォーラム京都に事務局長武田が登壇  
シンポジウム「子どもへの性搾取をなくすために」開催

11月 児童ポルノに関する国民意識調査を公開  
読売新聞に調査内容が掲載



特に、シンポジウムや実務者懇談会では、アメリカ、スウェーデン、タイなどから専門家を招き、最新の状況や対策などをお話しいただきました。こうした会には、警察庁、内閣府、法務省の職員の方にも参加いただくことができ、実際に政策や法整備に関わる人たちへ訴えかけることができました。

2023年に行ったシンポジウムでは、ECPAT International\*の事務局長が登壇した  
\*子どもの性搾取をなくすために活動する国際ネットワーク



また、2022年下旬からは、ChatGPTをはじめとする生成AIが急速に普及し、AIがつくった子どもの性的画像が国内のウェブサイトにも毎月3,000点以上投稿されていることが報じられるなど、新しいテクノロジーが子どもたちへの脅威となりつつあります。インターネット・ガバナンス・フォーラム京都での講演や意識調査などでは、こうした点にも触れ、新しいテクノロジーに対する仕組みづくりも訴えています。

こうした子どもたちを暴力、搾取から守るためのアドボカシー活動は、チャイルド・ファンド・ジャパンをはじめ、様々な団体が取り組んできており、その成果が少し



インターネット・ガバナンス・フォーラム京都で事務局長武田が登壇した様子

ずつ見え始めています。例えば、2023年6月には刑法が改正され、グルーミング(性的な目的のために子どもに優しく接し、信頼関係を築くこと)を処罰する規定が盛り込まれました。

また、教員など子どもに関わる職種に就こうとするときに、性犯罪歴がないことを確認する制度「日本版DBS\*」も動き出しています。イギリスなどですでに導入されている制度で、残念ながら日本では昨年、臨時国会への提出が見送られたものの、現在も法制化に向けた議論が進んでいます。

このように、市民社会が訴えてきた制度、仕組みは、少しずつですが前進を見せています。

\*Disclosure and Barring Service

## 教育協力NGOで取り組む「SDG4教育キャンペーン」

ここまでは、主に、暴力・搾取からの「子どもの保護」に関するアドボカシー活動についてお伝えしましたが、一方で私たちは、教育分野でのアドボカシー活動にも取り組んでいます。それが、SDG4教育キャンペーンです。

SDG4教育キャンペーンは、JNNE(教育協力NGOネットワーク)が主催するキャンペーンで、チャイルド・ファンド・ジャパンは、他団体とともに、キャンペーン実行委員を務めています。

キャンペーン内容は毎年異なり、例えば2023年度は、G7広島サミットが開催されるのに合わせ、G7首脳に対して、紛争地域への教育支援をより一層充実させる

よう求めました。子どもたちや一般の市民から、「紛争下の教育を守るために、各国政府にしてほしいことは？」などのテーマでメッセージを募集し、それをタイル状にしたものを使って、大きなモザイクアートを作成し、G7首脳へ訴えかけました。

キャンペーンと並行して、JNNEとして議員へのアプローチも行っており、例えば2022年には、国会議員のエチオピア視察を実施し、視察した議員が予算委員会で岸田首相へ質問するなどの成果がありました。

JNNEが以前から求めていたことのひとつが、ECW(Education cannot wait)への資金拠出です。ECW

は、災害・紛争下の教育支援を行うための国際的な基金で、各国政府、企業などが資金を拠出しています。日本は長年このECWへの資金拠出をしてきませんでした。

しかし、上記の予算委員会で首相がECWへの拠出について言及し、その後、約4億円の拠出が決定しました。JNNEがキャンペーンなどを通して訴えてきたことが実を結んだ瞬間でした。

G7サミット期間中に行った記者会見の様子。右に見えるのがモザイクアート。



## アドボカシーに欠かせない「子ども参加」

こうした様々なアドボカシー活動の中で、私たちが大切にしているのが「子ども参加」です。

子どもたちがどのような形で問題に直面しているのか、どうすれば子どもたちがリスクを回避できるのか、当事者である子どもの視点を生かして問題の解決に取り組むことが必要不可欠です。また、子どもたち自身が活動に参加することは、社会参画の機会となり、子ども自身の成長にもつながります。

チャイルド・ファンド・アライアンスで行っているWEB Safe&Wiseキャンペーンでは「Children's Advisory Council(子ども諮問委員会)」と題し、各国の子ども・ユースがキャンペーンの運営に参加しています。また、チャイルド・ファンド・ジャパンが野田内閣府特命担当大臣(肩書は当時)に要望書を提出した際にも、大学生のユース、小中学生が同席し、要望書の内容



グルーミング啓発動画の制作も子ども・ユースが関わっている

を大臣に説明したり、子どもたちが自身の直面している状況について訴えたりしてきました。さらに、東京事務所内では、アドボカシー担当インターンの大学生が、日々調査研究などに活躍しています。

## 一人ひとりの行動が社会を変える力に

法律を変える、制度を変えるのは、簡単ではありません。今回の特集でお伝えした、グルーミングの刑罰化、ECWへの初拠出などは、様々な団体が訴えかけてきた成果と言えますが、そこに至るまでには、何年もの月日がかかっています。「アドボカシーって意味あるの?」そんな声が聞こえてくることもあります。

しかし、誰かが声をあげなければ、誰かが行動しなければ何も変わらない、それもまた事実ではないでしょうか。そのことを私たちも、課題に果敢に挑戦していく子ども・ユースから日々教えられています。時間のかかる地道な活動ではありますが、これからもチャイ

ルド・ファンド・ジャパンは、アライアンスのメンバー団体、他のNGOなどの市民社会、そして子ども・ユース、また支援者の皆さまとともに、アドボカシー活動を続け、すべての子ども

たちが守られ、健やかに成長できる社会づくりを行っていきます。

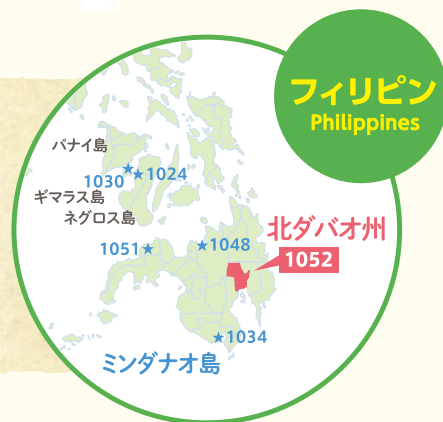




# ミンダナオ島の 子どもたちの様子をお伝えします！

支援事業部 石田 祐子

2023年8月、フィリピン南部・ミンダナオ島の支援地域、北ダバオ州へ視察に行きました。同州は、フィリピン第3の都市ダバオの経済域に属し、最近5年間では、地域の発展にともない、ダバオ市を中心とする5州の中で人口が最も多く、人口増加率も最も高い州ですが、末端の労働者の収入は低水準のままです。ダバオ地域の住民の多くはセブアノ語を母語とし、最も少数派の13の先住民族の人々と共存し生活しています。



事業地は、中心都市ダバオから木々や農耕地の間のなだらかな道路を車で2時間ほど移動したところにあります。最初に、地域の市長を表敬訪問し、同じく市長室の中に招かれていた子どもたち6名と交流しました。スポンサーシップ・プログラムで支援している4名の中高生たちと、別事業で奨学金を提供している大学生2名です。



石田(写真左)とレイチェル(写真右)

大学生の一人レイチェルは、とりわけ気さくな感じで、会うなり「写真撮ろうよ〜!」と言って、初対面の私とも、すぐに親しくしてくれました。今年から家族のもとを離れて、農業と関連技術が専門の大学の寮に住み、人材管理について重点的に学んでいるそうです。休みの日には、住まいの近隣で年下の子どもたちの学びを手伝っているとのことでした。奨学金へ応募した際の彼女の志望動機を読ませてもらったところ、「将来は財政面でも、自分が次世代の子どもたちを喜んで支援したい」ということが生き生きと語られていました。大学で学ぶことができる喜びとともに、自分が支える側の立場となる将来のビジョンを、彼女が既にはっきりと描いていることに驚きました。

市庁舎を出て、地域の民族舞踊を見せてもらい郷土料理をいただいた後、チャイルドのいる一家庭を訪問しました。インタビューに応じてくれたトゥリシャは7人家族で、6畳ほどの居間、4.5畳ほどの台所と2畳ほどの小部屋のある家に暮らしています。お父さんは農地を持たない農業季節労働者で、ココナッツやカカオの収穫などで月に2.5~3万円ほ

どの収入を得ています。

トゥリシャは、片道徒歩50分かかる通学与学校での勉強をこなし、家に帰って飲み水や生活用水の水汲み、食器洗い、洗濯をし、床の掃きそじを済ませ、ようやく夜に宿題をします。「学ぶことができて楽しい。算数、社会、国語が好き。夢はお医者さんになること。他の人たちを助けたいから」と言っていました。

出張の先々で、日本からの支援の思いがフィリピンの子どものまっすぐな心に映し出されているのを確認することができ、子どもたちのうちに希望を見ることができました。チャイルド・ファンド・ジャパンは今後も、フィリピン国内でもとりわけ生活が困窮している同地域での支援を継続し、人々の信条や社会的身分などの違いにより、特に取り残されてしまいそうな子どもたちとその家族、学校その他関係機関、地域社会を見出し、子どもたちの健やかな成長を支えていきます。



トゥリシャ(右から2番目)と家族



# パレスチナ・ガザ地区で 緊急支援を進めています

2023年10月7日から続く、パレスチナとイスラエルの軍事衝突。これまでに、両国での死者は2万人以上、負傷者は6万人近くとされています。一時は人道的観点から戦闘休止が合意されましたが、12月1日に戦闘が再開。終わりの見えない人道危機が続いています。

チャイルド・ファンドは、以前より、イタリアのメンバー団体(WeWorld)がパレスチナ・ガザ地区およびヨルダン川西岸において、子どもたちや女性を中心に支援を行ってきました。今回も、いち早く緊急支援の実施を決め、水と衛生の支援を中心に活動を行っています。

現在までに、96万リットルの生活用水・飲料水を給水車を通じて提供し、水を入れるためのポリタンク13,000個の配布、飲料水のボトル72,000本の配布も行ってきました。

しかし事態は極めて深刻で、スタッフの安全確保に最大限の配慮をしながらの活動が続いています。また、ガソリンなどの燃料がないためにロバを使って水を運搬するなど、物資支援も容易ではありません。

チャイルド・ファンドでは、紛争の状況に応じた3段階の支援計画を策定しています。これからも、状況を注視しつつ支援を行っていく予定です。



みなさん、  
はじめまして!

## 新入職員をご紹介します!

- ① 趣味や特技など
- ② これまでに行ってきたところ
- ③ 今後に向けて一言



あらき なほこ  
**荒木 名穂子**  
ネパール事務所長

- ① ラン、水泳、乗馬、テキスタイル好き
- ② エジプト(見どころはピラミッドだけではありません!)
- ③ NGOとODAを通じて、アフガニスタン、南スーダン、ケニア、ヨルダン、ミャンマーで人道・開発支援を経験してきました。世界が抱える国際問題(社会問題)が複雑化・多様化する中、支援のあり方について検討しながら日々の業務に取り組んでまいります。



いしだ ゆうこ  
**石田 祐子**  
支援事業部

- ① 賛美すること、ウクレレを弾くのが好きです。和英通訳ができます。
- ② 国内外問わず、教会。(今もおりますが笑)
- ③ 新約聖書第二コリント1章4節の通り「自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができる」はたらきがしたいです。



くりはら りえ  
**栗原 理恵**  
支援事業部

- ① テニス、史跡をめぐるお散歩(これからやりたい)
- ② アイスランド。「地球は生きている!」とそのエネルギーを肌で感じられる、とても不思議な国でした。まるで野外博物館??グトルフォスの滝、間欠泉などなど。
- ③ 皆さまの温かいご支援が、より多くの子どもの笑顔につながるよう努力してまいります。



てらさわ まゆこ  
**寺澤 真由子**  
コミュニケーション・  
マーケティング部  
支援者サービス課

- ① 趣味は手芸と美術・音楽鑑賞です。
- ② 海外でぜひ再訪したいのは、ブラハ、英国のコッツウォルズ地方とヨーク、アフリカのマラウイです。
- ③ 支援地域でのチャイルドの様子や置かれている環境についての理解を深め、ご支援者様にとって有益な仲介役になりたいと思っています。

お知らせ

## デジタルレター受付開始のご案内

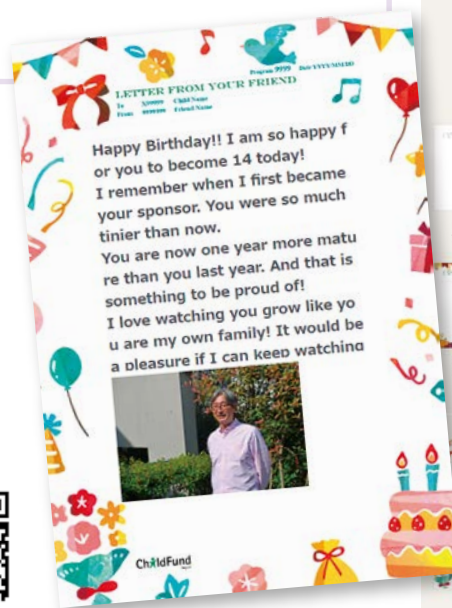
今年2月より、デジタルレターの受付を開始しました!これまで、スポンサーの皆さまには、チャイルドへのお手紙を便箋やカードでご用意いただいてきましたが、デジタルレターでは、ホームページ上で簡単にお手紙を作成し、そのままオンラインで東京事務局へお送りいただくことができます。

- ・メッセージの英文テンプレートがあるので、簡単に英文のお手紙をつくることができます。
- ・便箋のデザインをお選びいただくことができます。
- ・ご自身のお写真や画像を添付していただくことができます(1枚まで)。

デジタルレターの作成ページは、下のURL、QRコードからアクセスすることができます。スポンサーの皆さま、この機会にぜひ、チャイルドへお手紙をお送りください!  
※お手元の便箋やカードでのお手紙も、これまでどおり受け付けております。

詳しくはこちら

<https://childfund.or.jp/form/digitalletters/>



お知らせ

## 領収書の発送が完了しました

2023年にいただいたご寄付の領収書の発送が完了いたしました。チャイルド・ファンド・ジャパンは、「認定NPO法人」に認定されており、ご支援くださる皆さまには、所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置を受けていただくことが可能です。特に個人の方がチャイルド・ファンド・ジャパンに寄付をした場合、最大で寄付金額の約40%を、所得税から控除できます。一般的に、税額控除方式を選択されると所得控除方式より大きな減税効果が見込まれます。

詳しくは、「寄付金控除について」のページをご覧ください。

<https://www.childfund.or.jp/support/deduct.html>

チャイルド・ファンド・ジャパン 寄付金控除

🔍 検索



ChildFund Japan

**Vision Mission**

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

**ビジョン(目標)**

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

**ミッション(使命)**

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う11団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

チャイルド・ファンド・ジャパンスマイルズだより **SMILES**  
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン  
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5  
理事長/高橋潤 事務局長/武田勝彦  
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730  
E-mail:inquiry@childfund.or.jp  
URL:https://www.childfund.or.jp/

2024年2月発行  
(デザイン)  
モスデザイン研究所  
(印刷)  
吉原印刷株式会社